

# 市政に対する一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。  
9月定例会では、9月21日・22日の本会議で14人の議員から質問が行われ、終始熱の入った論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、5面まで続きます)。

## 姉妹都市柏市との市民レベルの交流を活発に行っては

あやせ市政クラブ 安藤多恵子

問 千葉県柏市と姉妹都市提携がされたことは、明るいニュースである。これを機会に、市民レベルの交流を活発に行い、まちの活性化につなげられないか。いきいき祭りの際に柏市の物産品の展示等があったが、それだけではなく、柏市の民謡で踊ったり、さらさら踊りを柏市の祭りですり、有名サッカーチームである柏レイソルのファンクラブ綾瀬支部をつくったり、夢のある交流を市民に投げかけてはどうか。また、柏市が他市とどのような交流をしているのか研究してはどうか。

答 旧沼南町の合併に伴い、七月二十三日に柏市と姉妹都市提携を結び、いきいき祭りに招待するなど交流を始めたところである。また、庁舎一階の壁面に紹介パネルを掲示して、姉妹都市柏市のアピールに努めている。本来的には市民レベルの自主的・自発的交流が理想であり、市はそのコーディネーター役であるべきと考えており、今後の都市交流については、従来の交流実績を参考に、市民団体やグループ単位で相互の自主的・自発的交流が図れるよう、柏

市と調整する中で検討していきたい。(他に「まちづくり条例を制定する考えはないか」「生涯学習部を市長部局に移管する時代ではないか」「住民への情報提供について」を質問)

## 環境まちづくり条例・美化条例制定の早期検討を望む

あやせ市政クラブ 青柳 慎

問 環境保全対策として、ごみの減量化を推進するに当たり、ごみの総合収集体制を見直すとともに、十二月からリサイクルプラザへの持ち込み粗大ごみを有料化するが、これに伴い懸念される不法投棄の増大に対し、環境パトロールを拡大してはどうか。また、姉妹都市の柏市では、ごみの不法投棄や犬猫等ペットのフンの放置を禁じたポイ捨て等防止条例を既に制定している。本市では、環境行動計画によると、平成二十五年度に環境まちづくり条例、美化条例の制定を検討することとなっているが、もう少し制定を早められないか。

答 不法投棄対策は、従来から県や関係各課の協力のもとに実施し、さらに郵便配達員等からの通報による対策も行っているが、パトロールの拡大については粗大ごみの有料化開始に向け、できる限りの対応をしていく。条例は、罰則を含め総合的

な検討を始めており、今後、市民の意見聴取や環境関係団体との協議を踏まえ、ポイ捨て、犬・猫のフンなどのマナーや家電、タイヤなど粗大ごみの不法投棄への対応など多岐にわたり検討し、可能であれば今年度中に条例の内容を詰めていきたい。(他に「公共施設のエコ化推進について」「綾瀬市民大学の開校について」を質問)

## 光綾公園前の道路渋滞解消に向けての取り組み状況は

あやせ市政クラブ 増田淳一郎

問 県道長後座間線の光綾公園前北側交差点の渋滞解消に向け、上深谷自治会が要望した上り、下りの右左折車線の設置に対する県の回答とその後の進捗状況は。スポーツセンター東側の道路は急に狭くなり車両の転落が心配されるが転落防止用のガードレール等を設置しないか。また、事故が発生した場合の管理責任は。サントリーの工場が操業を開始した場合の付近の住民や会社に配慮した交通対策は。文化会館西側の駐車場からの帰宅車両を農道を通し、豚舎の跡地付近から庁舎南側道路に右左折できるように整備しないか。

答 光綾公園入口前には将来的な道路計画があるので、現段階では、

渋滞解消に大変有効で県も積極的に進めるとしている右折車線から早急に対応していく。スポーツセンター東側道路は、利用形態等の調査とともに転落防止対策や進入禁止の看板の増設を行う。なお、管理者に瑕疵があれば責任を問われる。サントリー関係の車両は、走行ルートを分散し、さらに、交差点改良と信号機を設置し対応する。文化会館西側の農道は、道路境界、幅員、信号機等の問題があるが、部分的な道路改良に向けて来年度から取り組む。(他に「大震災に対する備えはいかに」を質問)



市の鳥「かわせみ」

## 学力向上のために二学期制の導入の考えはないか

新政会 綱嶋 洋一

問 完全学校週五日制がスタートし今年度で四年目を迎え、学校では定着してきたかと思われる。しかし、昨今では学力低下の問題などが盛んに議論されているが、五日制の導入による教育内容や授業時間が減ったことが原因ではないかと考えられている。そこで、学校週五日制導入後の現状や課題はどのようなものか。本市の児童・生徒の学力についてどのようなとらえ、学力向上のためにどのような施策を行っているのか。また、二学期制の導入については、どのように考えているか。

答 平成十四年度から学校週五日

## まちづくりのイメージからインター是非の判断を

日本共産党 上田 祐子

問 綾瀬市の現計画に東名インターは一切ない。それを変更するならば大きな市民合意が必要だが、八月の説明会で市民の関心はどうだったのか。説明会で示されていた市民アンケート結果では、「将来の都市イメージ」は自然都市、福祉都市、良好住宅都市が多数を占め、「将来のまちづくりに必要なこと」でインターは二・四％。インター設置は市民の意識とズレがあるのでは。財政面

制が完全実施され、子ども達にゆとりの中で、生きる力を培っていかうとする新しい教育を展開するため、教育内容が削減されたが、各学校ではそれぞれの特色や地域の特性等を生かしたさまざまな学習を展開している。さらに、市では、学習指導要領に示された内容の定着を図るために校内研究を積極的に進めるとともに、教員の指導力の向上や授業改善に努めている。また、二学期制については、学期制の検討委員会でメリット・デメリットについて検討しており、その意向を尊重していきたい。(他に「新たな人事評価システムの進捗状況について」「窓口サービスの充実について」を質問)

## 公共施設におけるアスベストの安全調査と撤去は

日本共産党 松本 春男

問 アスベストの危険性は、三十三年前から認識され国際問題になっていたにもかかわらず、国の対応が大幅に遅れたため、さまざまな分野に大量に使用され今も残っている。このことが今大問題になっているが、今回の本市における公共施設の安全調査と撤去の取り組み状況は。また、個人住宅に対する調査費補助の検討及び相談件数等の状況は。さらに、民間保育園のような市の施設に準じる公的施設の調査も検討しないか。市内の工場等におけるアスベストの使用実態について、把握しているか。

答 公共施設の調査は、全庁的に再点検を行い、現場目視及び設計図書による確認を行った結果、早園地区センター屋上機械室の撤去工事で十一施設の専門的サンプル調査が必要となった。この専門分析機関による調査では、既に四施設の安全性が

りの視点から、さがみ縦貫道の整備状況と併せて、その効果や影響についてパネルで示して実施した。来場者は五百七人と少なく、まだまだ市民に浸透していないが、市民との合意形成に向け、今回のアンケート結果や資料等を積極的に情報提供していく。産業の活性化だけでなく総合的に必要と考えており、インターの形等データが出た段階で試算する。(他に「総合保健福祉センター等公共施設の考え方」「タウンセンターによる地域商業機能充実の現状は」を質問)

確認され、残りは九月末報告の予定である。また、個人住宅は木造が多いため、吹き付けアスベストの使用は一般的に考えられないが、それを含めた相談件数は十八件あった。民間保育園については、今県が実態調査を始めたばかりの状況である。なお、市内工場ではアスベストの使用実態がないことを確認できている。(他に「河川の洪水対策について」を質問)

次号は、2月15日の新聞(朝刊)に折り込みます。